

かかあ天下 —ぐんまの絹物語—

“かかあ天下”という「強い女性」というイメージがありますが、実は、「働きものの女性」のこと。
 古くから絹産業の盛んな上州(群馬県)では、女性が養蚕・製糸・織物で家計を支え、近代になると、製糸工女や織手としてますます活躍しました。

夫(男)たちは、「おれのかかあは天下第一」と呼び、これが「かかあ天下」として上州名物になるとともに、現代では、内に外に活躍する女性像の代名詞ともなっています。

「かかあ天下 —ぐんまの絹物語—」のストーリーを構成する文化財は全部で13あり、下図の①②は中之条町に、③④は片品村に、⑤⑥⑦は甘楽町に、⑧～⑬は桐生市にあります。

日本遺産「かかあ天下 —ぐんまの絹物語—」構成文化財

